日中面白異文化考　第二話

白地に「寿」は？

次も葬儀の話。
「日本人の結婚式に出たらびっくり！　白地に寿って書いてあるんだ！」
「当然じゃないの」
「白地に寿は葬式だろ！　寿は寿命の寿さ」
「日本では白地に寿と言えば結婚式よ」
「中国では、“寿店”と言えば葬儀屋さ。“寿衣”と言ったらなんだと思う？」
「ウエディングドレス、じゃあないのね。“寿店”が葬儀屋なら、死人に着せる経帷子（きょうかたびら）？」
「うん、死人に着せる服さ。大体、白地に黒で字を書いたら葬式なんだ」
「じゃあ、おめでたい時はどうするの？」
「赤字に黒か黄色か金色で書く。スーパーに行ってごらんよ。お店の宣伝文句はみんな赤字に金色か、白地だったら赤字で書いてある」
「よく会社に中国からお客さんが来て歓迎会をするけど、確かいつも白地に“熱烈歓迎”って書いて貼っていたみたい」
「それってまずいよ。まるで『冥土へようこそ！』だ」
「うわーっ、とんでもないわね」
「そうさ。あの四川大地震の時、『人民日報』の題字が数日間、赤から黒に替わったくらいだ。色って中国人にはとても大事なんだよ」
「でも、この間、中国人の結婚式を見たら、白いウエディングドレスを着ていたわよ」
「それは別みたいだね。外国文化に対する憧れなんだろうね」
「何で中国人はそんなに赤が好きなの？」
「赤には古来、魔よけの意味があるんだ。周代の宮殿の柱は赤く塗られていたそうだよ」
「日本の平安神宮の柱も赤いわ」
「古代の小説には、いくら切っても傷口がふさがってしまう木があったので、人々に赤い服を着せて赤い粉をかけながら切ったらやっと切り倒せた、なんて話もあるんだ」
「じゃあ、私もストーカー対策に赤い服を着ようかしら」
「？？？」
中国から娘の神前結婚に来日したご両親、白地に寿に加えて、白い紙が下がっているしめ縄をみてびっくり。中国では、これに似たものをお墓にする地方もあるのです。これではめでたい気分になれないのも無理はありません。